

# 2 産業振興

～農業・漁業、商工業などの産業が活発なまち

## <基本計画の目標>

農業・漁業の経営安定と後継者の育成に努めます。  
 地域に即した都市農業・沿岸漁業の振興をめざします。  
 土づくりなどを通じて環境にやさしい農業を進めます。  
 魅力ある店舗とにぎわいのある商店街づくりを支援します。  
 製造業や新規成長産業（医療福祉関連、生活文化関連、情報通信関連、新製造技術関連、環境関連など）の集積を進めます。  
 中小企業の創業、経営安定、経営革新を支援します。

## <目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
新規開業届出件数(十)	市内における新規開業者(個人・法人)の年間総数	187	592	456	396	517	205	225
		事業所	事業所	事業所	事業所	事業所	事業所	事業所
鎌倉ブランドの認知度(十)	鎌倉ブランドの農水産物を知っている市民の割合	65.6	56.1	61.8	57.6	64.8	68	71
		%	%	%	%	%	%	%
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	30.7	33.9	34.1	38.4	43.0	33	36
		%	%	%	%	%	%	%

## <これまでの取組の評価～進捗と課題>

評価:◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

### ・市民経済部

#### <昨年度からの課題>

- ・腰越漁港改修整備事業は工事着手3年目となりましたが、国・県からの補助金が減額されるなど工程に一部遅れが生じています。
- ・鎌倉地域の漁港建設は必要最小限の機能を有する漁港を造ることで前向きに議論していくことが確認されましたが、今後の基本構想策定に向けた市民合意形成に重点をおくなど、事業の進め方について一部見直しを行うことになりました。
- ・農産物等ブランド事業における「鎌倉やさい」のニーズの高まりが顕著となっておりますが、農業者の高齢化や担い手不足などの課題があります。
- ・商店街の賑わいの向上と商店街組織の活性化、地球環境に配慮した企業の施設整備及び新規事業の創出支援などの課題があります。

#### <進捗>

- ・腰越漁港改修整備事業は平成21年度は前年度に引き続き、南防波堤（全長160m）及び防波護岸（全長80m）を施工し、平成21年度末時点で南防波堤の100mが完成断面となりました。
- ・鎌倉地域の漁港建設は第3次鎌倉漁港対策協議会（以下、「漁対協」）をこれまでに3回開催し、漁業者要望案の検証、位置・規模・機能などについて検討を行いました。
- ・農産物等ブランド事業は植木剪定材等による鎌倉ブランド堆肥の作成及び販売を継続して行い、また市民の食の安全に対する意識が高まる中、地産地消や環境にやさしい農業など都市農業の振興策を生産者やJAと協同して進めてきました。
- ・本市の農業振興を協議していた鎌倉市農業振興協議会からの報告書の提出を受け、「鎌倉の農業の周知」と耕作放棄地解消のための「相談体制の確立」に取り組むことにしました。
- ・商店街のにぎわいづくりを目指した商店街空き店舗出店事業費補助制度及び環境共生事業（企業施設整備事業）等補助制度の創設並びに商工業元気up事業費補助制度の一部改正を行いました。

#### <課題>

- ・腰越漁港改修整備事業は工事着手4年目となりますが、前年度同様に国・県からの補助金が減額されるなど工程がさらに遅れる見通しです。平成24年度が補助最終年度となるため、平成23年度及び24年度の事業費確保について計画どおりに進められるよう県とも十分協議していく必要があります。
- ・鎌倉地域の漁港建設は修正により基本構想策定のための経費が予算化されました。今後、漁対協の意見も踏まえ、また後期実施計画も見据えた事業の進め方について検討していく必要があります。
- ・鎌倉ブランドの平成21年度認知度は対前年度比で7.2ポイント上回りました。目標値71%の達成に向け、さまざまな機会を捉えさらに認知度を高めていく必要があります。
- ・商店街空き店舗出店事業費補助制度、商工業元気up事業費補助制度等新しい施策の効果の検証を行います。

担当部の評価



## <今後の展開(取組方針)>

### ・市民経済部

- ・腰越漁港改修整備事業は、平成24年度完成を目指し、22年度以降の事業を計画的かつ効率的に遂行します。
- ・鎌倉地域の漁港建設について第3次鎌倉漁港対策協議会等で市民等の意見も反映した基本構想策定にむけ協議・検討を進めます。
- ・本市の都市農業の振興を図るため、鎌倉市農業振興協議会の中で販路拡大と後継者育成に向けた具体的な施策の検討に取り組んでいきます。
- ・商店街のにぎわいづくりを目指した商店街空き店舗出店事業費補助制度及び環境共生事業（企業施設整備事業）等補助制度の創設並びに商工業元気up事業費補助制度の一部改正に取り組んでいきます。

## 鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



### 評価できるところ

- ・鎌倉ブランドは鎌倉を象徴するものとして市民から親しまれている。
- ・鎌倉野菜はブランドとして確立しつつある。ブランド（野菜）が定着してきたことは評価できる。作り手の意欲が感じられる。
- ・腰越のような漁業をその産業としている地域への支援は防波堤の整備など一定の努力が認められる。



### 課題・提言

- ・産業振興が漁港整備中心となっているが、漁業は産業としてのウェイトが小さいのではないかと、むしろ、商業や中小企業への振興策を考えてもらいたい。産業とアートが組み合わさったイベントなど動きは産業振興の大きな柱になるのではないかと。
- ・ステイクホルダー（意見をもつもの、利害関係者）の視点が欠けている。漁業振興、農業振興など、地場産業の中でも手厚く支援を受けている業種とまったく受けていない業種に分かれてしまっている。地産地消を活かした振興施策に期待する必要がある。
- ・商店街の活性化が必要と思う。観光客だけでなく、地元住民が買い物したくなる要素が欲しい。
- ・目標指数としては、新規開業届出件数の増加も重要だが、廃業件数を減らす事も重要。産業の持続性をもう少し考慮した評価書の記載内容にして頂きたい。